

引き続き、黒星病・黒点病の重要防除期間です。一定の間隔で薬剤散布を進め、果実感染防止努めてください。また、ケムシ類・アブラムシ類等の被害が目立つ場合は、今回散布を早める等の対策を講じてください。詳しくは下記をお読みください。

りんご



◆ 5 月中下旬の薬剤散布（前回散布より 10～12 日後）

散布時期：5/15～20 頃 *注意事項①、②参照

散布薬剤：水 100 リットル

展着剤 10 ml

ユニックス Z 水和剤 200 g（45 日前、4 回）

モスピラン顆粒水溶剤 25 g（前日、3 回）

スイカル 100 g（カルシウム剤）

◆ 散布日：5 月 日

◆ 散布量： リットル

*注意事項③、④参照

*注意事項⑤、⑥参照

対象病虫害：黒星病・黒点病・赤星病・うどんこ病

アブラムシ類・リンゴワタムシ・カメムシ類・カイガラムシ類・（ケムシ類）

10 アール当り散布量：500 リットル

【注意事項】 *必ずお読みください。

- ① 上記の散布時期は目安です。気象条件や各園の病虫害発生状況等を考慮して散布時期を決定してください。尚、不明な点は園芸技術課担当までお問い合わせください。（営農センター TEL 23-3933 まで）
- ② 6 月末まではサビの発生しやすい時期なので高温時の散布は避けること。
- ③ ユニックス Z 水和剤はサクランボに著しい薬害が生じるので絶対かからないように注意する。飛散が心配される場合はトレノックスフロアブル 500 倍（収穫 30 日前、5 回）を使用する。
- ④ ユニックス Z 水和剤に代えて、フルーツセイバー2000 倍（前日、3 回）でもよい。
- ⑤ スイカル等のカルシウム剤は、ビターピット・果実軟化防止や果実からの油上がり予防、果実の日持ち性向上、新梢の徒長抑制などに効果がある。今回から 5～6 回連続して散布する。
- ⑥ スイカルに代えて、ストピットⅡの 500 倍を使用してもよい。ストピットⅡは、カルシウム成分の他に有機皮膜補助剤が混合されており、カルシウム補給と併せて幼果期の果面保護効果がある。尚、使用方法等不明な点は、園芸技術課担当までお問い合わせください。

◆ 次回（6 月上旬）薬剤散布予定：6/1～5

梅雨前の黒星病・炭そ病やシンクイムシ類・カイガラムシ類等対象の薬剤散布になります。

◆ 裏面もお読みください。

りんご生育状況と今後の技術対策について

◆ ふじ生育状況調査（調査地点：平岡）＊満開時点：前年比－5日

年度	発芽	展葉	開花	満開	落花
H26	4/3	4/15	5/2	5/3	5/10
H27	3/31	4/8	4/27	4/29	5/7

参考：小田中
開花：4/25
満開：4/28
落花：5/5

参考：岩井沖
開花：4/29
満開：5/1
落花：



◆ 結実後の技術対策

- ① 満開後約3週間位（5/20過ぎ）で結実量や幼果のサビ等が十分確認できるようになります。よって、5月末を目安に予備摘果作業に入ってください。
- ② つがるや秋映等の品種で、低温被害が見られる場合は、極端な一輪摘果を控え、まずは結実状況やサビ果の発生状況を確認してください。また、中心果の欠落が著しい場合は、素質の良い側果を利用して生産量の確保に努めてください。
- ③ ふじで結実量が極端に不足している場合は、予備摘果時期を遅らせ、変形果やサビ果（果面の50%位まで）等の素質の悪い果実でも残し、樹勢の安定化を図ってください。
- ④ 低温被害が大きい園では、側果を利用できるふじから優先的に予備摘果を進めてください。
- ⑤ 結実不良園では、早期の徒長枝切除は当面控えてください。また、梅雨明け頃に過繁茂状態になる場合は、適宜管理作業を進めてください。
- ⑥ 養分転換期の5月下旬になっても、展葉枚数が少なく、葉色が悪く小さい葉が多く見られる場合は、追肥や葉面散布を実施してください。（詳細は担当技術員までお問い合わせください）

◆ マイマイガ（ケムシ類）対策について

街路灯や住宅近くの明るい果樹園は、越冬卵塊が多く特に注意が必要です。5月中下旬になると、山林等で大型化した中齢幼虫が果樹園に盛んに移入し、摂食量も多いため短期間に多大な被害をもたらします。その場合は速効的かつ残効の長い合成ピレスロイド剤を使用してください。詳しくは、担当技術員までお問い合わせください。

（参考）5月中下旬（幼虫移入期）の防除薬剤

時期	薬剤名	倍率
5月中下旬～6月 （幼虫移入期）	サムコルフロアブル 10（ジアミド系）	2,500～5,000
	フェニックスフロアブル（ジアミド系）	4,000～6,000
	ディアナ WDG（スピノシン系）	5,000～10,000
	モスピラン顆粒水溶剤（ネオニコチノイド系）	2,000～4,000
	バリアード顆粒水和剤（ネオニコチノイド系）	2,000～4,000
	アディオンフロアブル（合成ピレスロイド系）	1,500
	アードントフロアブル（合成ピレスロイド系）	2,000

【ふじの青玉果除去対策】

昨秋の高温の影響で、果台が2cm以上伸長したものが本年も多く見られます。この長い果台に結実した果実は、収穫時に青玉果（光玉）になることが多い傾向です。よって、摘果時に極力除去するようにしましょう。

詳しくは6月中下旬の現地講習会で対策を講じますのでご参加ください。

